



第11回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 関東支部学術集会

プログラム・抄録集

会期 2026年7月25日(土)

会場 順天堂大学 7号館 小川講堂
〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目1-1

会長 塩田 智美

順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学

テーマ ～知と経験に触れ、明日の現場へ～

13時30分 開場・参加受付開始 機器展示
14時00分 教育講演①
15時00分 教育講演②
14時～16時30分 機器展示
16時30分 終了



アクセス



JR/丸の内線 御茶ノ水駅、
JR/都営三田線 水道橋駅から
徒歩5～7分



写真の外階段の入口からお入
りください

【参加者へのご案内】

1) 参加費

- ・ 会員（2026 年までの会費納入者:1,000 円（不課税） *現金のみ
- ・ 会員（年会費未納入者）/非会員:2,000 円（税込） *現金のみ
- ・ 学生：無料

2) プログラム・抄録集

電子版(PDF)を本会 WEB サイトにて閲覧・印刷が可能です

3) 単位の取得について

＊単位取得は教育講演①、②の両者へ参加した場合に限ります

参加証明書は、当日会場でお渡しします。

【呼吸ケア指導士認定更新単位取得】： 出席者 10 単位、筆頭演者 10 単位

【3 学会合同呼吸療法認定士資格更新単位取得】：

- a. 出席 20 点、 b. 呼吸療法に直接関連した演題の第 1 演者 20 点

【開催にあたって】

学術集会 会長 塩田智美（順天堂大学呼吸器内科）

このたび、第 11 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会を開催できますことを、大変嬉しく思います。ご参加いただきます皆様、ご講演・ご発表をお引き受けくださいました先生方、ならびに開催にご尽力いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本学術集会では、「知と経験に触れ、明日の現場へ」をテーマに掲げました。慢性呼吸器疾患患者の増加、さらには在宅医療の拡充に伴い、呼吸ケア・リハビリテーションは急性期から回復期、生活期、在宅まで切れ目なく提供される医療へと発展しています。その実践には、医師、看護師、理学療法士をはじめとする多職種がそれぞれの専門性を発揮し、連携することがこれまで以上に求められています。

今年度は、2つの教育講演と機器展示（ハンズオン）を行います。教育講演 1 では、皿谷健教授に「呼吸器疾患患者のミ・カ・タ：評価・診療・介入につなぐ実践的アプローチ」をご講演いただきます。患者を多角的に評価し、診療から介入へとつなげるための実践的な知見は、日常診療に直結する貴重な学びとなることが期待されます。また、教育講演 2 では、「病院・外来・訪問看護の呼吸ケア・リハビリテーション最前線」をテーマに、急性期から地域・在宅までを見据えた呼吸ケア・リハビリテーションの現状と展望について、多職種の立場からご講演いただきます。施設や職種の垣根を越えた連携の重要性を再認識し、これからの地域包括ケア時代に求められる実践について理解を深める機会となることを期待しております。本学術集会が、参加者の皆様にとって新たな学びと交流の場となり、今後の呼吸ケア・リハビリテーションのさらなる発展につながる一日となれば幸いです。皆様の積極的なご参加と活発な討論をお願い申し上げます。

開催にあたりご支援をいただきました企業さまに厚く御礼申し上げます。

共催セミナー（機器展示、広告含む）日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

帝人ヘルスケア株式会社

企業展示（広告含む）

フクダライフテック東京株式会社

Fisher & Paykel Healthcare 株式会社

広告

フィリップスジャパン

中外製薬

【プログラム・詳録】

会長挨拶 13 : 55

教育セミナー1 14 : 00～14 : 50

呼吸器疾患患者のミ・カ・タ：評価・診療・介入につなぐ実践的アプローチ

座長：塩田 智美（順天堂大学大学院医学研究科呼吸器内科学）

演者：皿谷 健（杏林大学大学院医学研究科 呼吸器内科学）

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

抄録：呼吸器疾患の評価では、画像や検査値だけでなく、患者をどう「見る」か、どう「診る」かが臨床判断の出発点となる。本セミナーでは、模擬患者を用い、体表に解剖学的ランドマークを描き込みながら、胸郭・横隔膜・気管支・肺区域を意識した身体診察の基本を実践的に解説する。視診、触診、打診、聴診を一連の流れとして捉え、呼吸様式、胸郭運動、声音振盪、打診音、wheezes や crackles などの肺音所見を、どのように疾患理解と介入につなげるかを共有したい。間質性肺炎では好発部位と fine crackles、気管支拡張症では湿性咳嗽や coarse crackles、COPD では呼吸補助筋の使用や呼気延長など、疾患ごとの「見つけどころ」を動画や音声を交えて具体的に取り上げる。単に所見を覚えるのではなく、病歴、身体所見、画像、リハビリテーション評価をつなぎ、患者の重症度、ADL、ケアの方向性を考える力を養うことを目指す。PT、ST、看護師、学生、若手医師を含む多職種が、明日からの評価・診察・介入に活かせる実践的アプローチを提示する。

- * 被験者役に登壇いただき、実際の身体所見を実践的にご講演いただきます。
- * 撮影は**禁止**ですが、広い階段教室ですので、双眼鏡やオペラグラスをご持参頂くとより効果的な視聴となります。

病院・外来・訪問看護の呼吸ケア・リハビリテーション最前線

座長：松野 圭（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター）

演者：三浦季余美（理学療法士，順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室）

佐野裕子（理学療法士，順天堂大学大学院医療看護学研究科臨床病態学分野リハビリテーション系）

内山恵美（看護師，サニーナース訪問看護ステーション）

共催：帝人ヘルスケア株式会社

抄録：

大学病院での急性期呼吸リハビリテーション

三浦 季余美（理学療法士，3学会合同呼吸療法認定士，順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室主任）

当院における呼吸リハビリテーションの対象患者は、呼吸不全の精査目的で入院した患者、肺炎や慢性閉塞性肺疾患の発症・急性増悪患者、肺癌の周術期や内科治療中の患者など多岐にわたる。患者ごとに病態や治療、入院期間は異なり、日々変動する全身状態・身体機能を評価しながら、治療の副作用および運動負荷による症状増悪に留意し、活動性の維持・向上を図ることが理学療法士に求められている。安静時および労作時の酸素必要量について主治医や病棟看護師と情報共有を行い、リスク管理をしながら運動の種類・量・頻度を検討、積極的にリハビリテーションを実施している。さらに、週1回の多職種（呼吸器内科医・病棟看護師・退院支援看護師・理学療法士）カンファレンスを通して、患者・家族の希望やニーズ、病気の受容状況、治療内容、生命予後、機能予後、外来通院の頻度や通院方法について早期から情報共有を行い、急性期から生活期へ円滑かつシームレスに移行できるよう医療連携および社会的支援の調整を行っている。本発表では、症例を通して、呼吸リハビリテーションにおける理学療法士の視点から、日々の取り組みを紹介する。

「入院しない」を目指す外来呼吸リハビリテーション

佐野 裕子（理学療法士，順天堂大学大学院医療看護学研究科臨床病態学分野リハビリテーション系）

慢性呼吸器疾患患者において、入院時の身体活動の低下や臥床時間の増加により入院関連機能障害（Hospitalization-associated disability；HAD）を生じやすく、退院後のADL低下や再入院のリスクを高める。本講演では、外来呼吸リハビリテーション（PR）がHAD予防と入院回避に果たす役割について、自施設での長期実践を踏まえて概説する。外来PRは運動耐容能・呼吸困難・QOLの改善に加え、再入院率を大幅に減少させることが報告されており、身体活動量（歩数・中強度活動）の増加や座位時間の減少をもたらす介入として高い価値が示されている。さらに我々の低頻度介入の外来PRにおいて、コロナ禍においても身体活動を維持しており、行動変容支援とセルフマネジメント教育の効果が確認された。また10年以上外来で継続しているCOPD患者では、増悪時の早期対応、活動量の自己管理、生活行動の安定化により、長期的に入院を回避し得ることが示されている。本講演では、外来PRの具体的な介入方法、身体活動モニタリングの活用、セルフマネジメント支援の実践を紹介し、これらの知見から外来PRの意義を再整理する。

訪問看護の呼吸ケア・リハビリテーション最前線—入院せず暮らしの継続を支援する呼吸リハビリ—

内山恵美（看護師，サニーナース訪問看護ステーション代表）

在宅療養において、呼吸器疾患や神経難病等による呼吸困難は日常生活を著しく制限し、廃用症候群やQOL低下を招く。当ステーションでは、3学会合同呼吸療法認定士の視点を活かし、病院看護の延長ではなく「生活の支援」としての呼吸リハビリテーションを実践している。主な介入内容は、呼吸筋のリラクゼーション、胸郭可動域拡張といったコンディショニングである。「自分で吸える胸」をつくることを目的としたこれらの介入により、SP02の改善や呼吸苦の緩和が確認されている。また、身体機能の向上により、ADLの拡大や外出再開など、利用者のQOLが大きく改善する事例を多数経験した。本発表では、在宅における呼吸リハビリの実際とその効果、終末期ケアへの応用を報告する。訪問看護師が呼吸ケアの専門性を高め、在宅での「呼吸管理」を推進することが、利用者の暮らしを支える鍵となる。

会長挨拶 15：55

機器展示 14：00～16：30

小川講堂前ホワイエ



患者さんの Quality of Life の
向上が私たちの理念です。

健保適用

TEIJIN

●在宅酸素療法



酸素濃縮装置(テレメトリー式パルスオキシメータ受信機)

ハイサン・i

販売名:ハイサン・i
承認番号:230ADBZX00107000

●在宅酸素療法



酸素濃縮装置(呼吸同調式レギュレータ、
テレメトリー式パルスオキシメータ受信機)

ハイサン ポータブルαⅢ

販売名:ハイサンポータブルαⅢ
承認番号:304ADBZX00043000

●NPPV療法



汎用人工呼吸器(二相式気道陽圧ユニット)

NIPネーザル[®] V-E(タイプ名)

販売名:NIPネーザルV
承認番号:22300BZX00433000

●ハイフローセラピー



加熱式加湿器

F&P AIRVO[™]2

F&P myAIRVO[™]2

販売名:フロージェネレーター-Airvo
承認番号:22500BZX00417000

販売名:フロージェネレーター-myAirvo
承認番号:22800BZX00186000

●ASV療法



二相式気道陽圧ユニット

AirCurve TJ

販売名:レスメドAirCurve 10 CS-A TJ
承認番号:22900BZX00028000

●CPAP療法



持続的自動気道陽圧ユニット
(持続的気道陽圧ユニット、加熱式加湿器)

スリープメイト.11

販売名:スリープメイト.11
承認番号:30300BZX00343A01

帝人ファーマ 医療関係者

検索



ご使用前に電子添文および取扱説明書をよく読み、正しくお使いください。

帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

QOL002-TB-2401-2
2024年1月作成

FUKUDA
DENSHI



- Enrich life for everyone -

小児から成人、NPPVからTPPVまで
神経・筋疾患患者の換気をサポート
人工呼吸器装着者の生活を豊かにすることを
コンセプトとした機能を搭載しています

高機能と機動性を両立した人工呼吸器

8時間の内部バッテリーを搭載しながらも3.2Kgの軽量設計です。
航空機内での離発着時を含めた使用に対応しています。*
また、車移動においてはDCアダプタを用いることで
内部バッテリーを消費することなく安心して移動ができます。

* FAA (Federal Aviation Administration : 米国連邦航空局) の要求事項
[RTCA/DO-160, section 21, category M]。
航空機での使用は、予め各航空会社にお問い合わせください。

汎用人工呼吸器

クリーンエアASTRAL[®]

医療機器承認番号: 22600BZI00018000
販売名: クリーンエア ASTRAL
高度管理医療機器 特定保守管理医療機器
選任製造販売業者: レスメド株式会社

フクダ電子株式会社 〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 <https://www.fukuda.co.jp/>

PHILIPS

✦
Evolution of care.



院内も在宅も、呼吸管理の
クオリティ向上を追求した
トリロジー Evoシリーズ

製造販売会社
株式会社フィリップス・ジャパン
〒106-0041 東京都港区麻布台1-3-1
麻布台ヒルズ森JPタワー15階
www.philips.co.jp/healthcare

販売・呼吸器製品のお問い合わせは地域の事業所まで
東京支店 〒111-0043 東京都台東区駒形1-12-14
Tel.03-5806-7171
記載されている製品名などの特許名等は、Koninklijke Philips N.V.
またはその子会社の所有または登録商標です。
© 2026 Koninklijke Philips N.V.

一般名: 成人用人工呼吸器 販売名: トリロジー Evoシリーズ
製造販売承認番号: 30200BZX00152000 高度管理製造販売/特定保守管理製造販売



脊髄性筋萎縮症治療剤
新薬、処方箋医薬品^(注)

薬価基準収載

エブリスディ[®]ドライシロップ60mg
エブリスディ[®]錠5mg



リスジプラム製剤

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること
® F.ホフマン・ラ・ロシュ社 (スイス) 登録商標

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む注意事項
等情報」等については電子添文をご参照ください。

製造販売元



中外製薬株式会社
〒100-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

Roche ロシュグループ

文献請求先及び問い合わせ先) メディカルインフォメーション部
TEL.0120-189-706 FAX.0120-189-705

【販売情報提供活動に関する問い合わせ先】
https://www.chugai-pharm.co.jp/guideline/

2026年4月作成